

「多文化共生社会推進プラン」の改訂について

1 改訂の視点

- (1) プランの計画期間（2008～2012年度）の終了に伴い、これまでの成果を点検・評価するとともに、岡山市外国人市民会議などの意見を踏まえる。
- (2) 2011年3月に発生した「東日本大震災」から得られた貴重な教訓を踏まえるとともに、2014年秋、本市において開催される「ESDに関するユネスコ世界会議」を視野に入れる。

2 改訂の主な内容

(1) コミュニケーションの支援

- ・ 多言語化するだけでなく絵図や「やさしい日本語」を活用するとともに、多言語による行政情報の一覧をホームページに載せ入手場所や担当部署を広く知らせる。
- ・ 出入国、社会保険、保健・福祉、労働、教育などの関係機関や民間団体と連携を進め、効果的な相談体制を整える。
- ・ 海外や外国人観光客に対して岡山市の魅力の効果的な発信に取り組む。

(2) 外国人市民に対する防災対策

- ・ 普段から防災対策についての多言語化に取り組むとともに、機会を捉えて防災学習や防災訓練などを行い、外国人市民に対して防災知識を広める。
- ・ 災害が発生したときには、ラジオ放送などを活用して多言語や「やさしい日本語」により分かりやすく情報を伝える。
- ・ 避難所では、多言語による表示や相談窓口を設けるなど、外国人市民のニーズに応じた対応を行う。

(3) 外国人市民の社会参加の促進

- ・ 町内会やPTA、ボランティアでの活動など、外国人市民の地域社会への参加を進める。
- ・ 外国人市民の文化・スポーツ活動の機会拡大を進める中で、外国人市民により母国の特色ある文化・スポーツなどを紹介する。

3 計画期間

2014年度から2018年度までの5年間